

あした 未来へつなぐ

[CS]

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



JABankへの感謝の意を込めて、毎年、寄贈を受けた駅で「AED贈呈式」を開催。10月2日に帯広駅東コンコースで行われた。寄贈された6台は、星置駅、苫小牧駅、東室蘭駅、釧路駅、帯広駅、函館駅の古いAEDと取り替えられた。

JABank(JA/JA北海道信連)からの寄贈もあり、三十七駅に計四十一台のAEDを設置！ より一層安心して利用できる駅へ

医

療行為の規制緩和により、だれでも使用

できるようになったAED(自動体外式除細動器)。これは突然、心停止してしまつた人に電気ショックを与え、心臓を正常なリズムに戻すための医療機器で、救急車が到着するまでの救命

措置に効果があるとして、ここ数年、公共施設をはじめ、さまざまな場所に設置されています。

JR北海道でも平成十七年に、札幌駅に初めて導入しました。一日に二十万人以上が利用する札幌駅には、東西の改札口付近ほ

か、計四台を設置。翌年には手稲駅、桑園駅、新札幌駅、新千歳空港駅の四駅に二台ずつ設置し、その後も順次導入を進めてきました。



AEDは定期的に取り替えが必要。JAバンクより寄贈されたAEDは、新規設置だけでなく、取り替え用としても利用されている。

組んでいるJABankより寄贈の申し入れがあり、以来、毎年、五、六台を寄贈

する普通救命講習を受講させ、突然の事態に備えています。

平成二十二年には、各地の社会福祉協議会に車イスを寄贈するなど、地域社会貢献活動に積極的に取り組

ちなみに、導入から七年で実際に使用した事例は七件。平成二十一年に旭川駅ホームで列車を待つていたお客さまが突然倒れ、駅社員がAEDによる救命処置を行ったのが最初の事例です。そのほか、偶然通りかかった医療関係者が使用した事例もあり、成果を上げています。

これまで、AEDの設置駅は二日あたりの乗降人員が一万人以上の駅と道内の拠点駅に限られていましたが、今年から乗降人員五千人以上の駅も対象として、学園都市線の新川駅や新琴似駅、函館本線の厚別駅

JR北海道では、より一層安心して利用できる駅、そして鉄道を目指していきます。